

## 高校と私

世界中が敵になっても味方になれる仲間たち

A5、キムデギョン

### 1. 紹介文

私にとって大切なコミュニティはきつかった高校の時代を一緒にすごしたコミュニティです。その理由は、そのコミュニティに一番仲がいい友達がいるからです。

私は進学校の中で一番勉強ができて、勉強するように体罰がきついし校則もきつい学校で有名なところに行きました。あの学校で毎日朝から夜十一時まで勉強ばかりしました。そのような、学生としてきつい時間を過ごす時、一番私を支えてくれた存在は日本に興味がある友達でした。日本に興味があったその友達から聞いて、いろんなことを調べたり見たりしました。例えば日本のドラマやアニメーション、映画、小説などでした。

どれほど仲が良くて日本に興味があるかをいうと、高校三年間を一緒に過ごして、卒業旅行を4人で一緒に日本の関西に行ったぐらいです。その卒業旅行は私が計画を立ててガイドもしましたが、それは4人がちゃんと日本に興味があってからこそできたと思います。もちろん私がガイドとしていったことを尊重し、従ってくれたこともあります。その旅行がきっかけで、そのコミュニティの結束力は強くなりました。だから高校を卒業した後も、どんなに忙しくて遠くにいても年に4回ぐらいは必ず会いました。

私たちは苦しむときにお互いに力になってくれて、うれしいときは一緒に笑ってくれて、悲しいときは一緒に泣いてくれて、良いことがあったら一緒にお祝いしてくれる世界で一つしかないコミュニティーです。誰でもそうだと思いますが、私たちはお互いを大切に思ってくれてそのために何でもできる存在です。今まで様々なことがありましたが、例えば恋人との別れや軍隊入隊、家族のお葬式などですが、私たちが一緒にそばでいたからこそ超えたのではないかと思います。だからこそこのコミュニティーが私にとっては世界中が敵になっても味方になれる仲間たちだと思います。

ちなみに今は私がここで留学しているし、他の3人は公務員の試験のため勉強していて会えませんが、私が韓国に帰ると飲み会をするつもりです。

これが私がそのコミュニティを一番大切にしている理由です。

### 2. インタビュー相手について

私はインタビュー相手として高校のコミュニティの一員であるキムクァンイルを選びました。その理由は一番小言を言うからです。私のコミュニティでリーダーはいませんが、私が主にその役目になったりしています。ほとんどの日程を私が決めるからです。そして会うと友達との会話の流れや話題の司会をするからです。しかし、私と他の友達は、友達の味方になるようにしていますが、キムクァンイルは違います。ちゃんとなんなかのついて悪い点を指摘し、きれいな言葉じゃなくて正しいことを言います。大体、意地悪ことが多いですが、でもそれこそがキムクァンイルのいいところだと思います。それでキム

クァンイルをインタビュー相手として選びました。

キムクァンイルは、コミュニティの中でほとんど賛成をしない否定的な役目をしていません。何を言ってもまず意地悪か、それとも賛成しないほうです。でも彼はちゃんと論理的に言うから、私たちはきっちりその答えをしなければなりません。その過程で私たちは間違いや正当性を見つけてとてもいいことだと思っています。しかし、それが原因でけんかした事は一度もなかったです。何故ならキムクァンイルが言ったことはまず間違っていないからです。そして彼もコミュニティの一員だから納得しないと一緒に何かをするとき困るからです。もちろんコミュニティの一員以前に、友達だから友達と意見が違うからけんかをする子供みたいな真似をする歳ではないです。

キムクァンイルは先述べたように、否定する印象が強いです。そして強がりやです。それで自分の弱さをほとんど言いません。それは元々周りを冷静な目で見える性格だからそうかもしれません。それともコミュニティのみんなが誰にも言えない悩みや相談を話すから自分だけはあまり感情的にならず、理性的に判断し適切なアドバイスをしようという考えを持っているからそうかもしれません。だから、もしキムクァンイルが自分の弱さについて話したら、いつでもどんな状況でも聴こうと思っています。例えば、キムクァンイルは自分にどんな悲しいことがあっても気持ちをいれずに結果だけ冷静に言います。私たちのコミュニティが動揺しないように自分から感情的にならないように普段頑張っているのです。だからキムクァンイルが感情的になる時は大変なことだなど思うことになります。その時が来たらちゃんと聴こうと思っています。

今回も私が知り合いが一人もない寂しい留学に行って、私にとってはこのコミュニティを見直すきっかけになりそうです。それで、それについてキムクァンイルの正直で冷静な話を聞きたくてキムクァンイルをインタビュー相手にしました。

### 3. インタビューの結果

このインタビューは11月19日午後4時にそれぞれの家で国際電話で40分ぐらい行いました。それぞれリラックスの状態インタビュー相手にこのインタビューの目的とテーマに前もって言った上で行いました。

1) キムクァンイルは自分にとってそのコミュニティは時間が長く流れても変わらないことであると言いました。「嬉しい時より悲しい時にもっと頼りになる。」そして「何も言わずにいても気まずくなく、何もせずに、何の目的がなくても一緒にいたら落ち着く。」それが自分にとってのコミュニティの感想だと言いました。それは特にどこで感じたわけではなく、一緒にいるときは常にそう感じているらしかったです。初めて感じた時は先述べた日本の卒業旅行を行った時からと話しました。特に誰と一緒にいて感じるのではなく、コミュニティの一員とならそう感じていたと言いました。

2) 私はそのコミュニティを世界中が敵になってもいつも私の味方になれると考えました。何故なら何があっても、たとえ私の問題点を指摘しても、結局は私のことを守るため、私が幸せになりたい気持ちでそばにいてくれるからです。そしていつどこで感じたのか、誰という時そう思うかの質問では、キムクァンイルと同じです。コミュニティの一員と一緒に

にいる時そう思うし、初めて感じたのは日本に卒業旅行を行った時からです。

3) キムクァンイルにこれからそのコミュニティで何をしていきたいか、そのコミュニティをどうしていきたいかを聞きました。キムクァンイルは「今まで影という役目をした」と言いました。見えないけど、いつも支えてくれるのが彼の役目だと考えてるみたいです。そしてこれからそのコミュニティでしたいことは何もないと言いました。まさに「行雲流水」の言葉のように止まらずに変わっていく、そのことを見るだけだと言いました。

4) 私は紹介文で述べたように司会の役目をしたと思いました。司会とは自分の意見を出しながらみんなの意見を引き出し、合わせ、その集団がうまくいくようにする役目であります。私は今までそのような司会をやってたんです。そしてみんなに連絡を始め、待ち合わせの約束まで私がしました。そんな私がそのコミュニティをどうしていきたいか。それはキムクァンイルと同じ考えです。変わっても変わらなくても根本的に同じなはずです。どんなに時間が過ぎて変わっていても、私はいつまでも私でいる、そして彼らも彼ら自身としてそこにいるはずですから。

5) 最後に、キムクァンイルに私やそのコミュニティについて言いたい言葉を聞きました。彼は「連絡がなくても待つてなく、気まずくなく、心配がない、いつでも見れるという感じだ。だからキムデギョンが韓国に帰らないでほしい。何故ならキムデギョンが日本に留学に行ったからそのコミュニティについて考えることになった。だから不自然な感じだ。」と言いました。これについては最後にちょっとぐらい「早く来て」という気持ちを素直にいけないから、このような冗談をしたと思います。最後まで私とそのコミュニティを心配しているキムクァンイルにありがたいな気持ちです。